



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

個人投資家向け会社説明会

SWCC株式会社

東証プライム 5805

自己紹介（パー・パス）



小又 哲夫
こまた てつお
社長執行役員
代表取締役CEO

小又社長のマイパー・パスは…

変わる勇気、
変える挑戦。
**共に成長を
楽しむ!**

現状に満足することなく、知恵と勇気をもって
変革への挑戦を続け、私
たち自身とSWCCグル
ープの成長を共に楽しめ
る会社にしていく。

時代は、変化でできている。
私たちが、変化をしないわけにはいかない。
インフラだけじゃない。電線だけでもない。
つないでいるのは、昨日や、今日や、明日のこと。
この先も、人が和やかに生きるために。
いつかの、愛すべきあたりまえのために。
人を想う品質と信頼で、応えていく。
だから、情熱と輝きをたやさない。挑戦をやめない。

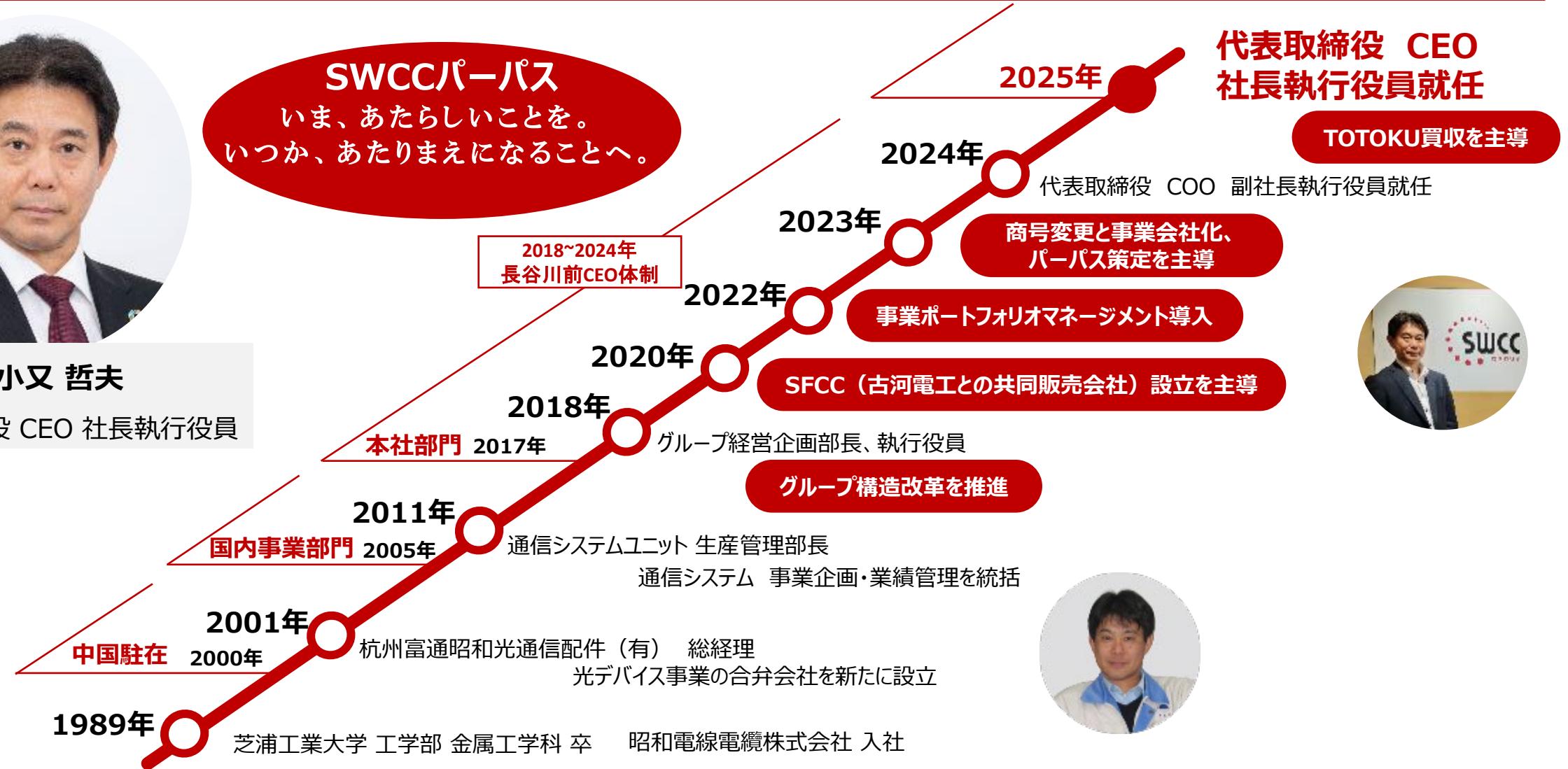
いま、あたらしいことを。
いつか、あたりまえになることへ。

経歴 ~前CEOと共に、企業価値向上をけん引~



小又 哲夫

代表取締役 CEO 社長執行役員



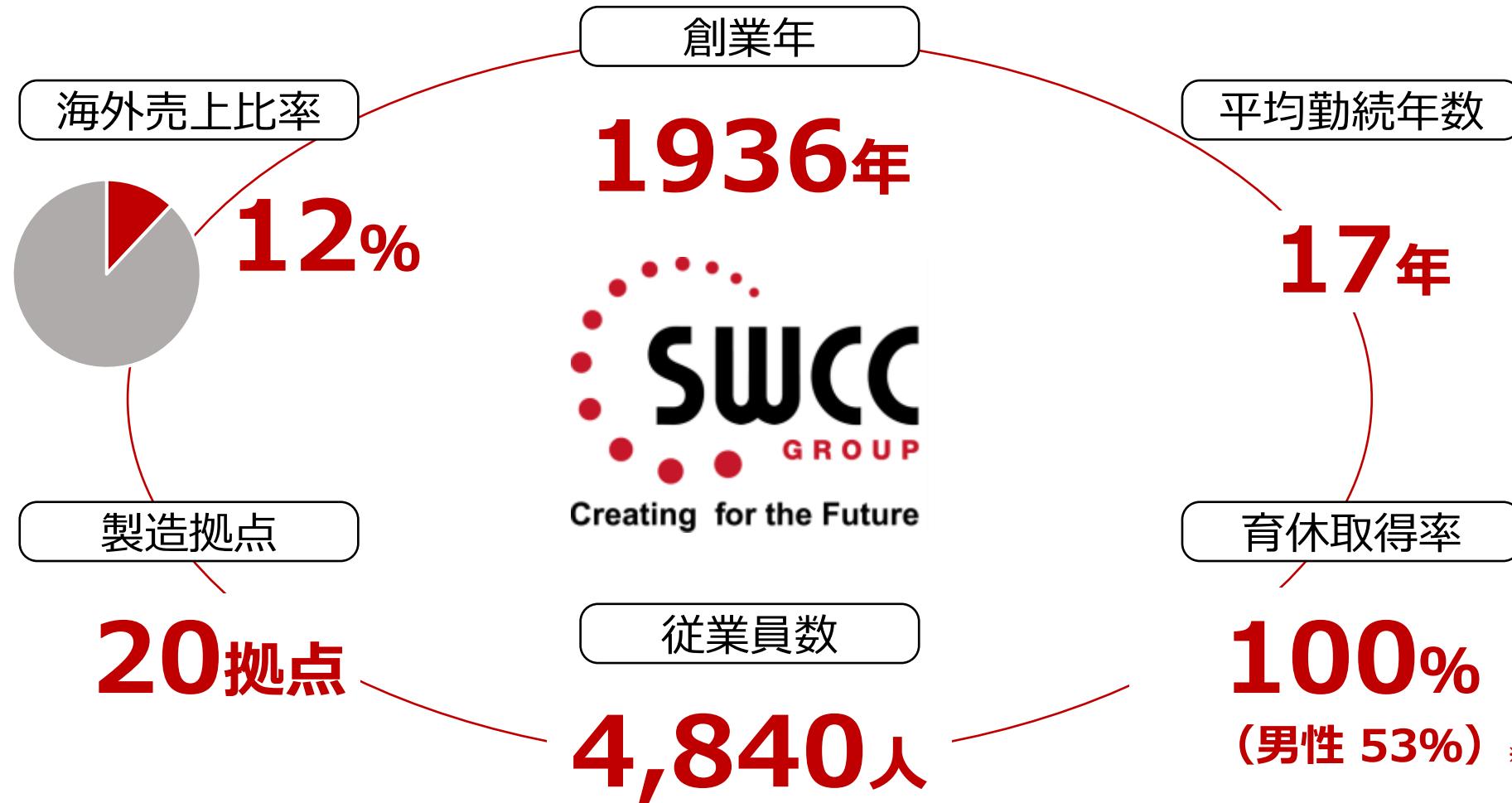
- SWCCは、社会インフラを支える製品群を提供しています
- SWCCは、資本効率を意識した経営で、収益性を高めています
- 電力インフラの強靭化、自動車の進化といった大きな成長機会があります
- 電線・ケーブル領域で培った強みを応用し、インフラだけじゃない。電線だけでもない。事業領域へと広げ、さらなる利益成長を目指しています
- 株主還元を強化しています

本日の内容

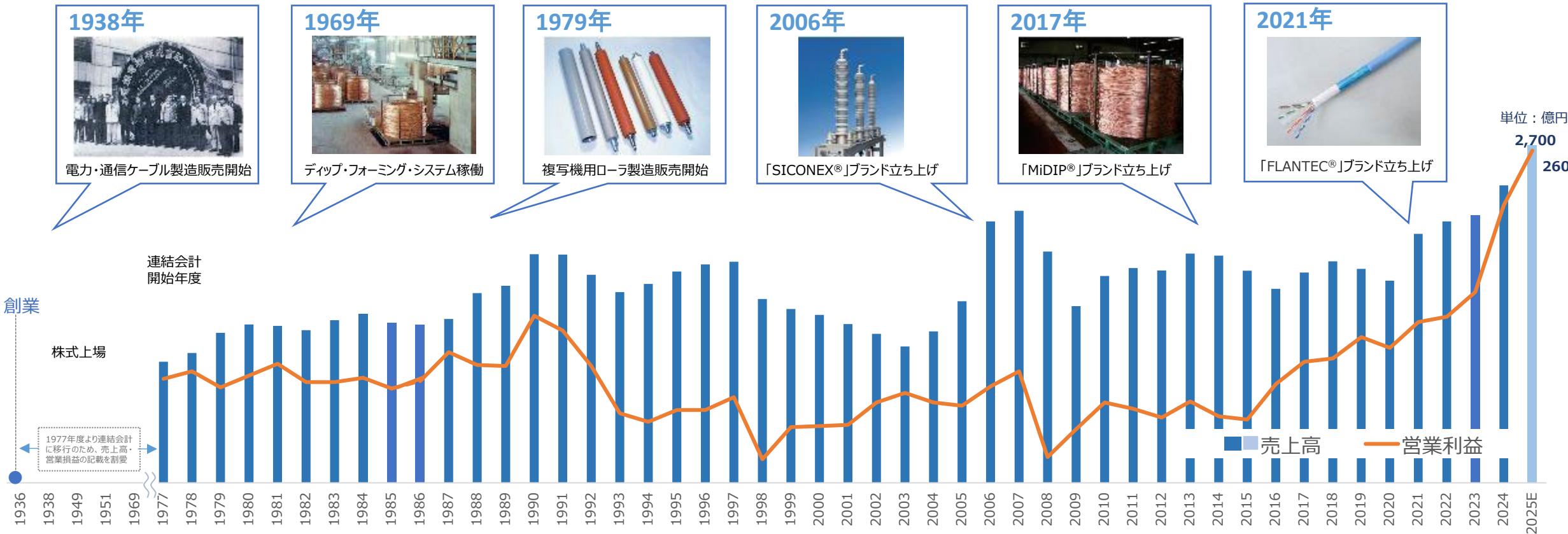
1. SWCCについて
2. SWCCの目指す姿と各事業の成長戦略
3. 株主還元
4. Appendix

1. SWCCについて

数字でみるSWCC



沿革



1936年
昭和電線電纜株式会社設立

1949年
東京証券取引所に株式上場

1951年
米国GE社と技術援助契約締結

2006年
持株会社体制へ移行 商号変更

2019年
監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行
ROIC経営やセグメント制を導入し構造改革を進めグループガバナンスを強化

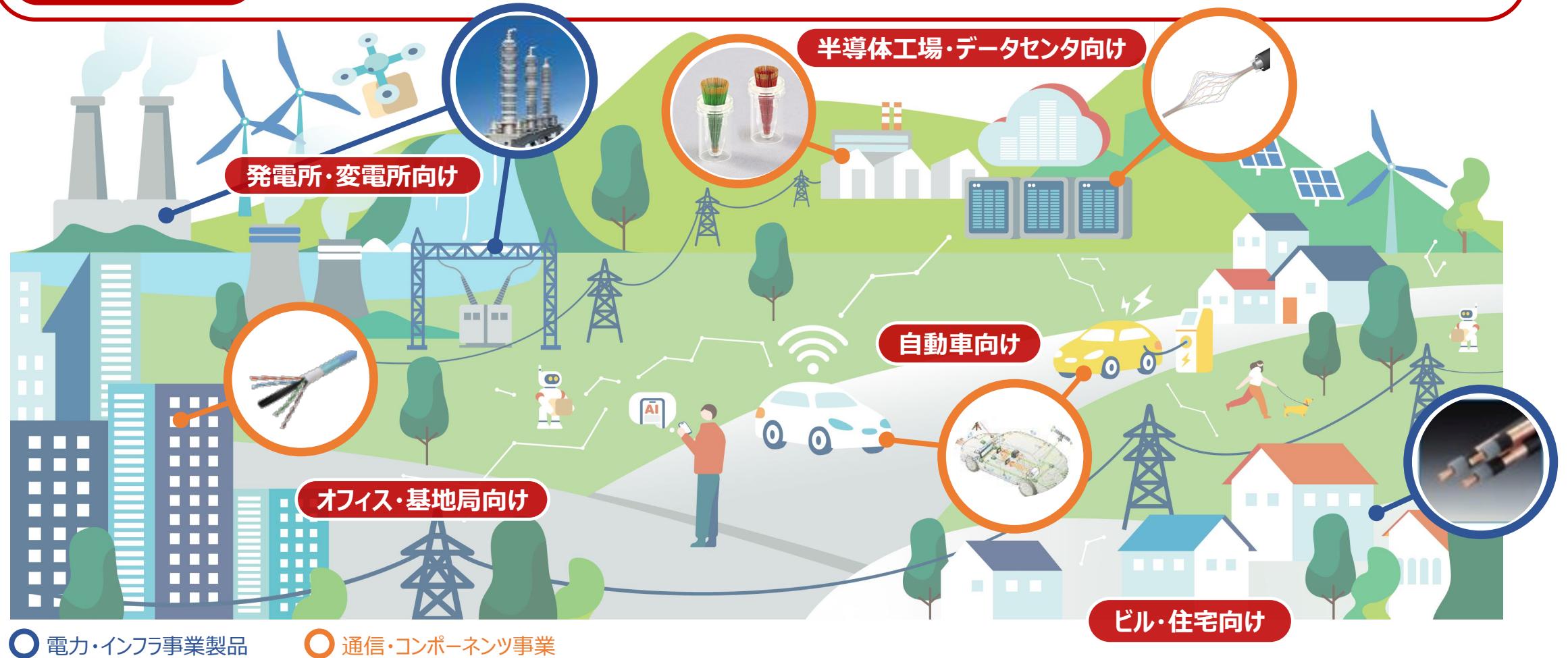
2023年
持株会社体制から事業会社へと移行
商号をSWCCと改め「SWCCパーパス」を策定

2025年
共同投資による株式会社TOTOKUの株式を取得

SWCCは社会インフラを支える製品で、持続可能な社会に貢献しています

社会課題

消費電力の増加 インフラの老朽化 労働人口の減少 CO₂削減 加速する技術革新 等



2. SWCCの目指す姿と各事業の成長戦略

2030年の目指す姿「ソリューション提案型の価値創造企業」

SWCCが培ったコア技術をもとに、
より良い未来につながる新しい価値を創造し、
さらなる企業価値向上を目指す



当社の主要事業について

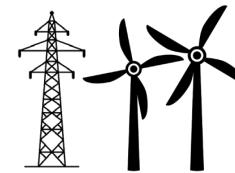
エネルギー・インフラ事業

電力インフラ

SICONEX



国内変電所シェア約75%



コンパクトな高電圧電力ケーブル用
コネクタSICONEX

建設関連



産業用電線・ケーブル

48%

70%

2025年度計画
売上高(外円)
2,700億円
営業利益(内円)
260億円

30%

49%

間欠接着
リボン



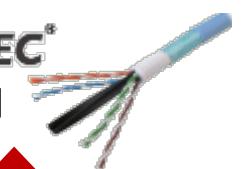
通信・コンポーネンツ事業

通信ケーブル

FLANTEC®

高速LAN用
ケーブル

国内シェア約40%



モビリティ・半導体用

プローブピン



グローバルシェア
約30%



グローバルシェア
約40%

※外円の売上にはここに記載していないその他が3%あります。

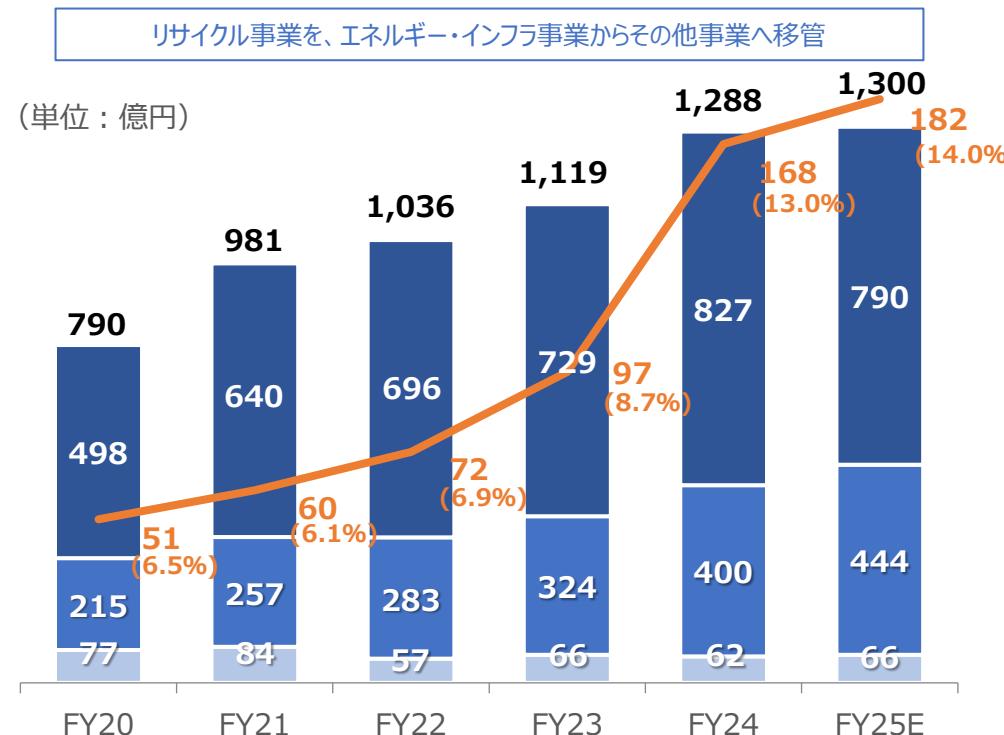
※シェアは当社想定2024年度の実績です。

セグメント区分の業績推移

次期中期経営計画の開示を2026年2月に予定しています。

エネルギー・インフラ事業

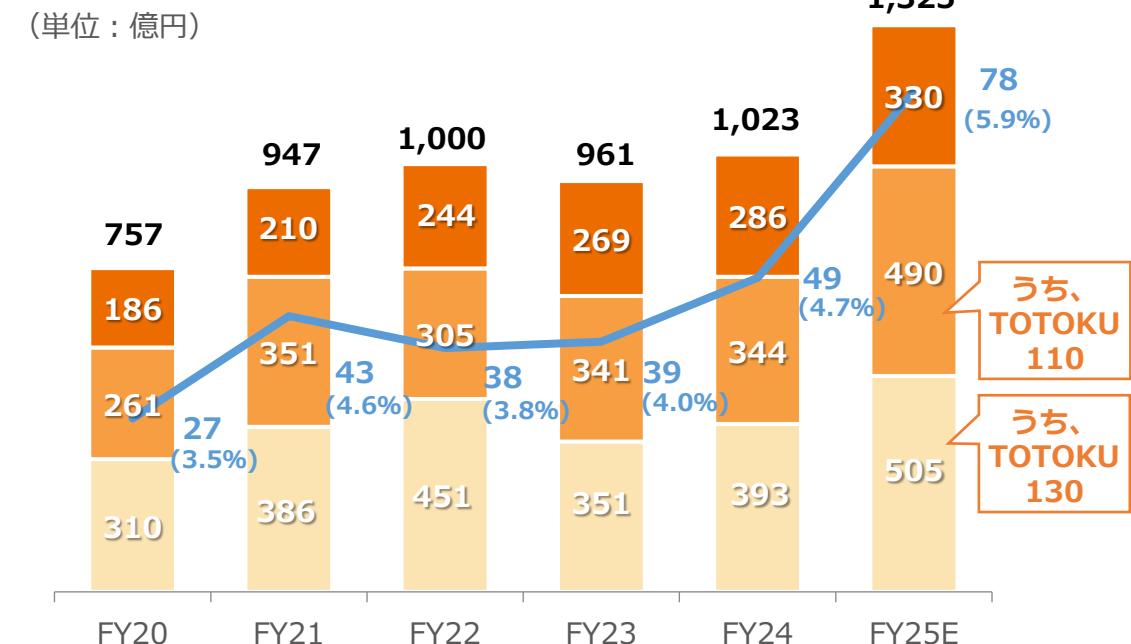
■ 建設関連 ■ 電力インフラ ■ 免震・その他 ■ 営業利益 () ■ 営業利益率



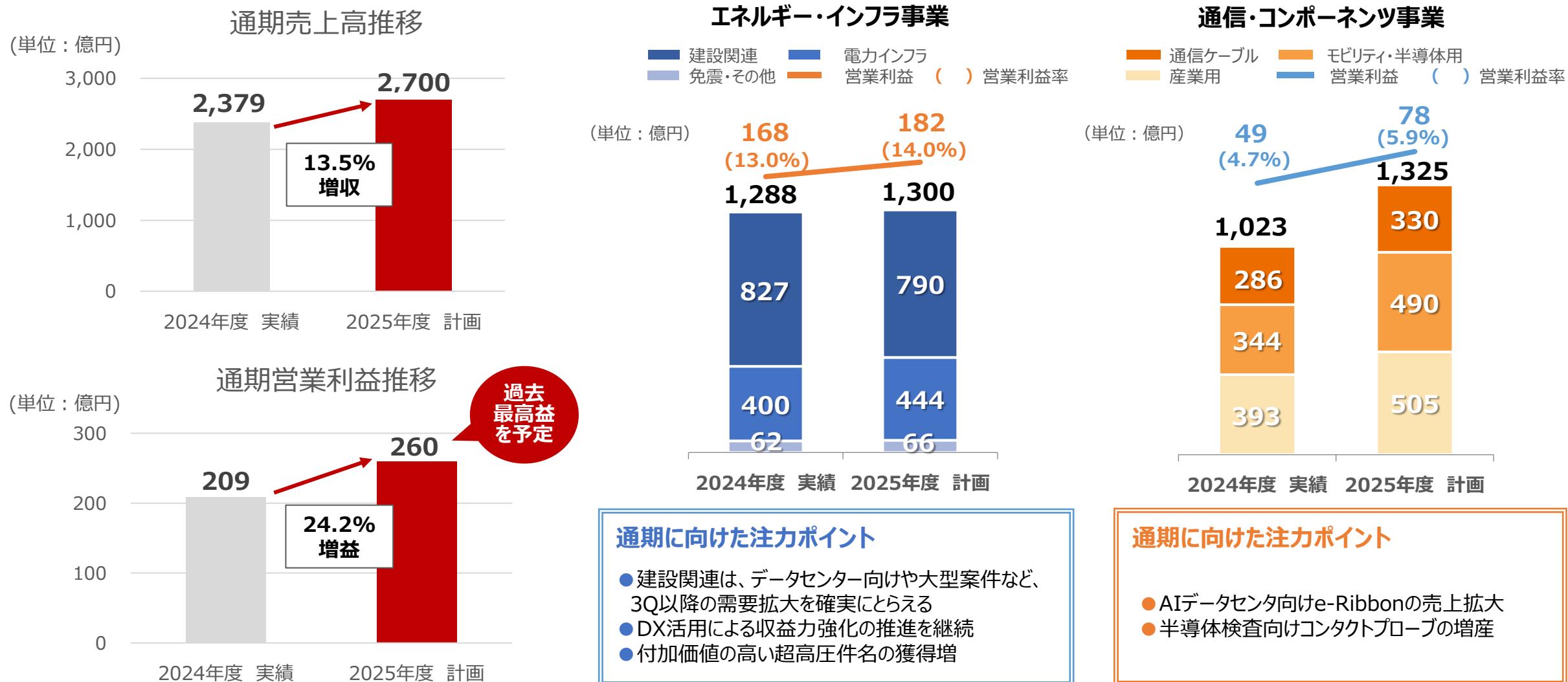
通信・コンポーネンツ事業

■ 通信ケーブル ■ モビリティ・半導体用 ■ 産業用 ■ 営業利益 () ■ 営業利益率

一部建設関連製品を、エネルギー・インフラ事業から通信・コンポーネンツ事業へ移管



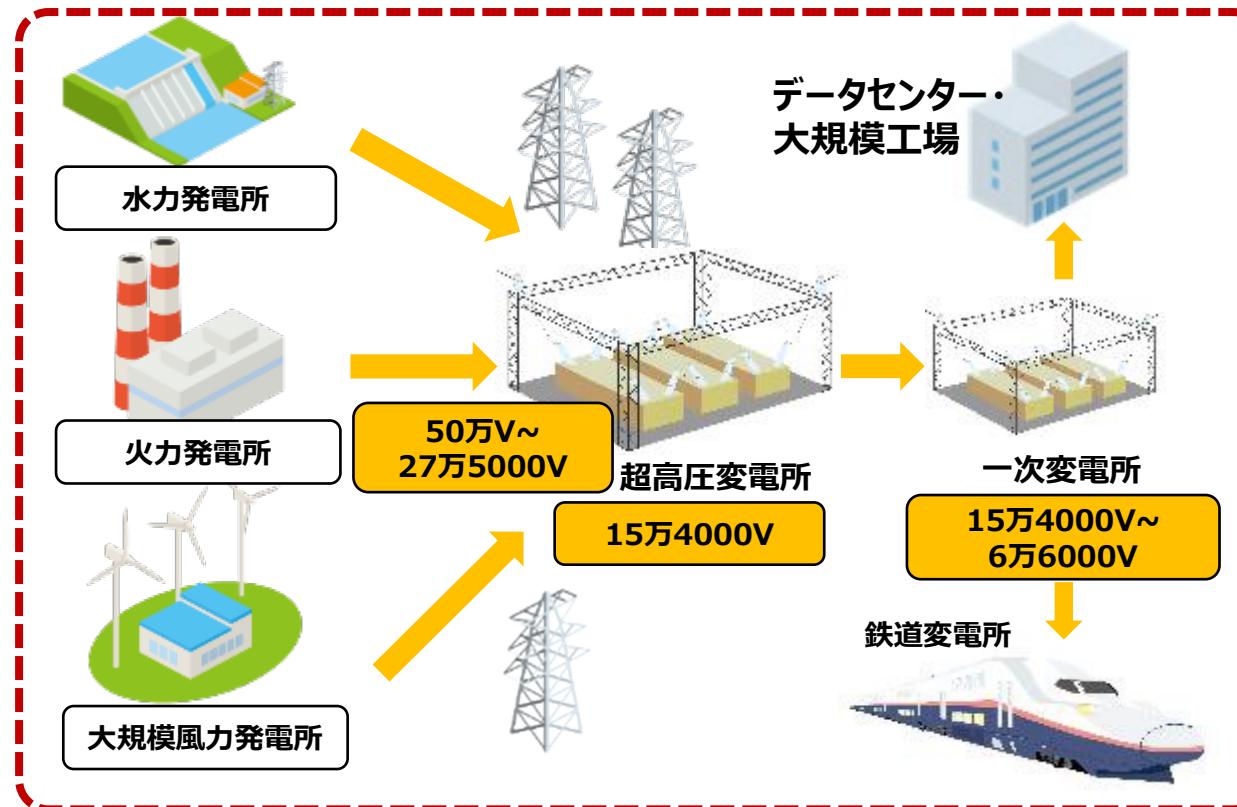
2025年度 通期業績計画～営業利益は最高益を見込む～



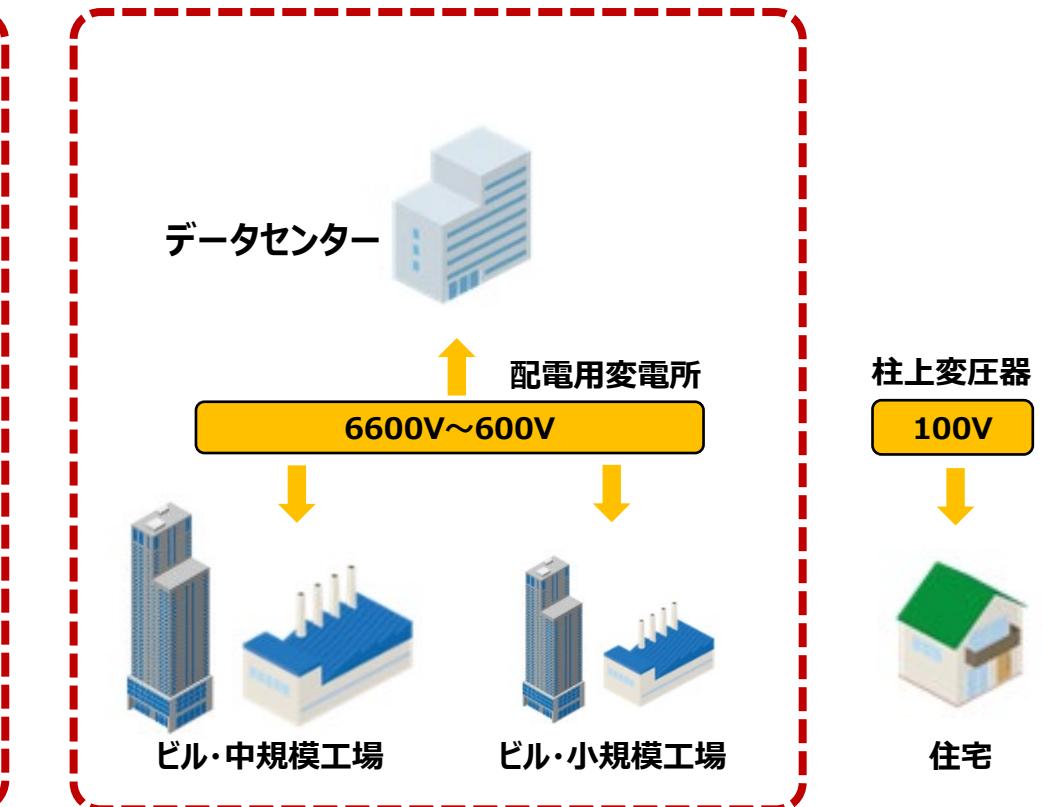
電力供給の流れと当社のエネルギー・インフラ領域

発電所で作られた電気は電力ケーブルで送られ、変電所を経由し、家庭、工場、ビルなど、それぞれに適した電圧に変換されて供給されます。当社は、電力ケーブル同士を接続したり、変電所内にある電力機器や電力ケーブルを接続するのに欠かせない電力接続部品を開発製造し、提供しています。

当社の電力インフラ事業のマーケット



当社の建設関連事業のマーケット



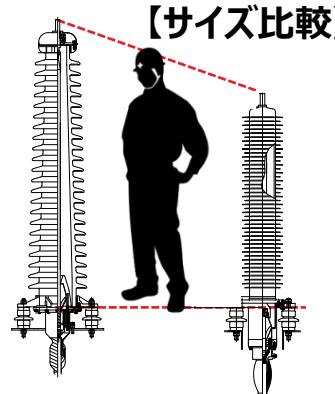
高電圧電力ケーブル用コネクタSICONEX®（サイコネックス）

SICONEXの特長と強み

■環境配慮型でコンパクト

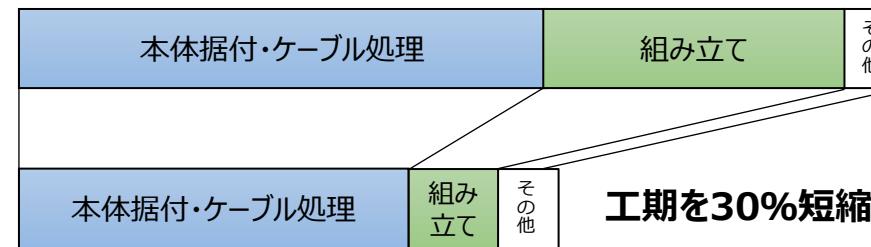
環境性や耐震性、施工性を革新する独自の製品設計で差別化を実現しています。

SICONEX



【作業工程比較】

磁器がい管

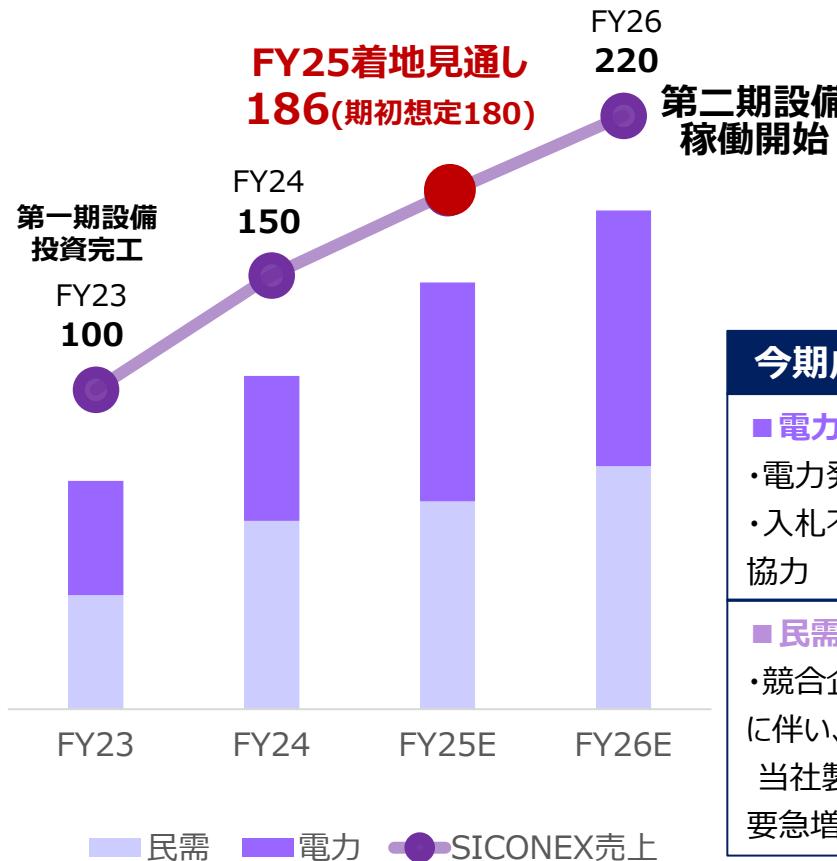


こんなところで使われています

■主に電力送配電設備や変圧器、発電所および変電所で使われています。



FY23売上を100とした場合の SICONEX® 業績拡大見通し



今期成長加速要因

■電力

- ・電力発変電シェア拡大
- ・入札不調案件の実施協力

■民需

- ・競合企業の一部撤退に伴い、当社製品への切替需要急増

電力インフラ事業の人手不足解消に向けた取り組み

時間外労働時間の上限規制が適用となる「2024年問題」に対応した、省力化、省人化、作業効率化を推進しています。

製品

ユニバーサルデザイン推進

スキルレスな接続工法



従来、熟練の技術を必要とするケーブル加工を、ユニバーサルデザインの導入によりスキルレス化を実現。

年配者や女性にも扱いやすい 製品の提供

製品の 低重量化

軽量化ニーズをもとに
製品重量の見直しを
業界に先駆けて実施。

人

サステナブル人材教育

施工人財開発センターの設立



技術者の早期育成
プログラム(DX教材
活用・模擬施設訓
練・知識習得・現
場OJT)構築により
優秀な人材を確保。

地産地消型クラウド人材戦略

センターで教育した
人材は、現在北海
道から沖縄まで全
国に拡大。

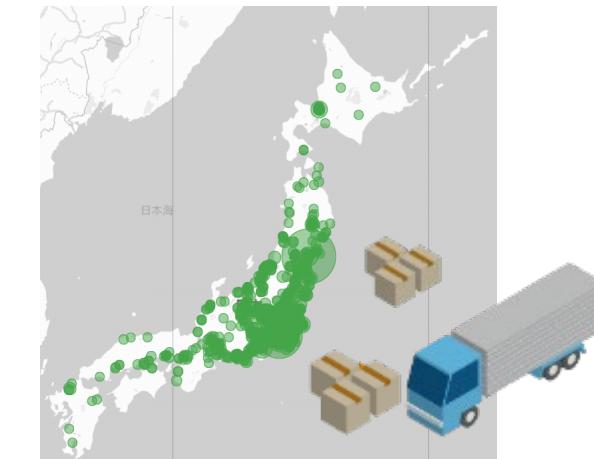
SICOPLUS®人材クラウド



物流

ロジスティクスのDX推進

最適ルート・積載量を視える化



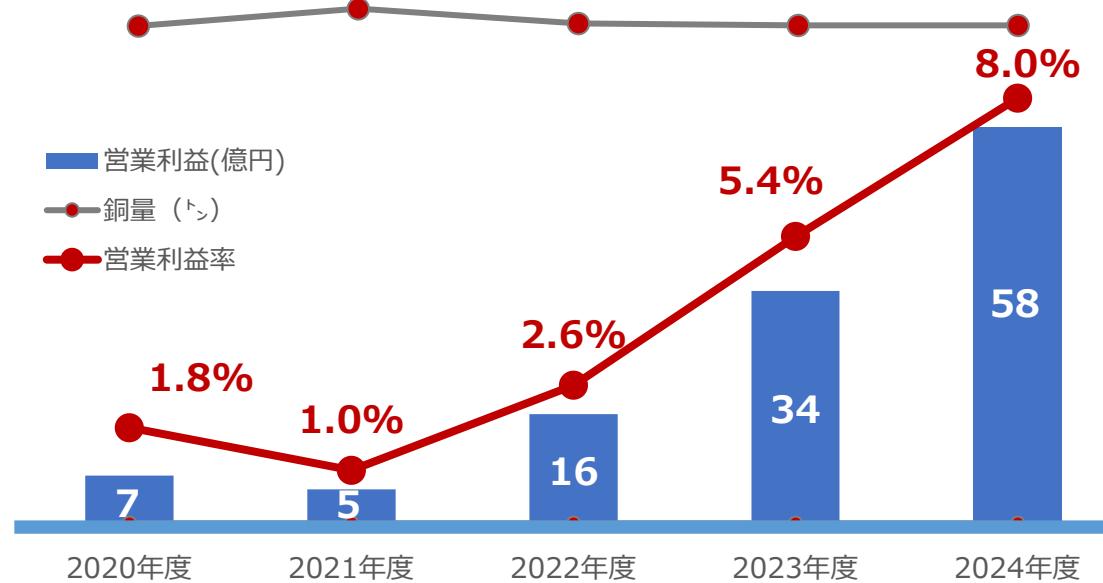
物流を担う子会社 (株)ロジス・ワークスを
中心に物流体制をDX化。全国の流通セン
ターの配送状況をクラウド化してスマートで共
有し、配車管理の業務効率化を推進。

建設関連事業の成長戦略について

建設関連事業は、2024年度の**売上構成比率40%近くを占める、当社の主要な戦略事業**です。過去5年間で収益改善を行ってきましたが、今後も、事業環境の影響はあるものの、**物流改革などの施策**により安定的な収益貢献を目指します。

事業環境

2025年～2026年にかけて、底堅い需要は見通せるものの、工事現場の働き方改革による大型案件の工程・竣工遅れや資材価格高騰による建設計画の見直しなどに伴う需要調整を想定しています。しかしながら、大型プラント、データセンターなどの案件もあり回復の見込みです。



生産能力向上による原価低減

仙台から茨城への設備移管と新設の投資で効率的な生産体制を構築

経費削減効果 1.1億円/年

物流改革によるキャッシュフロー改善



三重事業所の敷地活用により、**在庫を圧縮し、回転率を向上。**

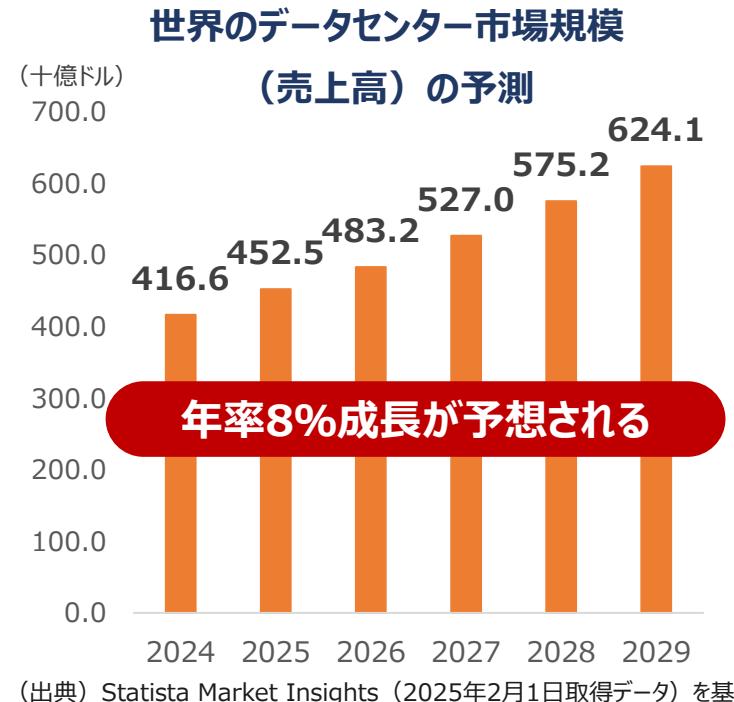
通信ケーブル事業 e-Ribbon® (イーリボン) の成長戦略

AIの急速な拡大により、大量情報の高速処理を必要とする場面が急増しています。データセンターでの配線の効率化は不可欠であり、当社が提供するe-Ribbon®は、間欠接着リボンとして超細径高密度光ケーブルに使われますが、**大量の光ファイバーを収納でき、配線敷設工事の作業性を向上させる**点から、大きな注目を集めています。

こんなところで使われています



データセンターは成長産業



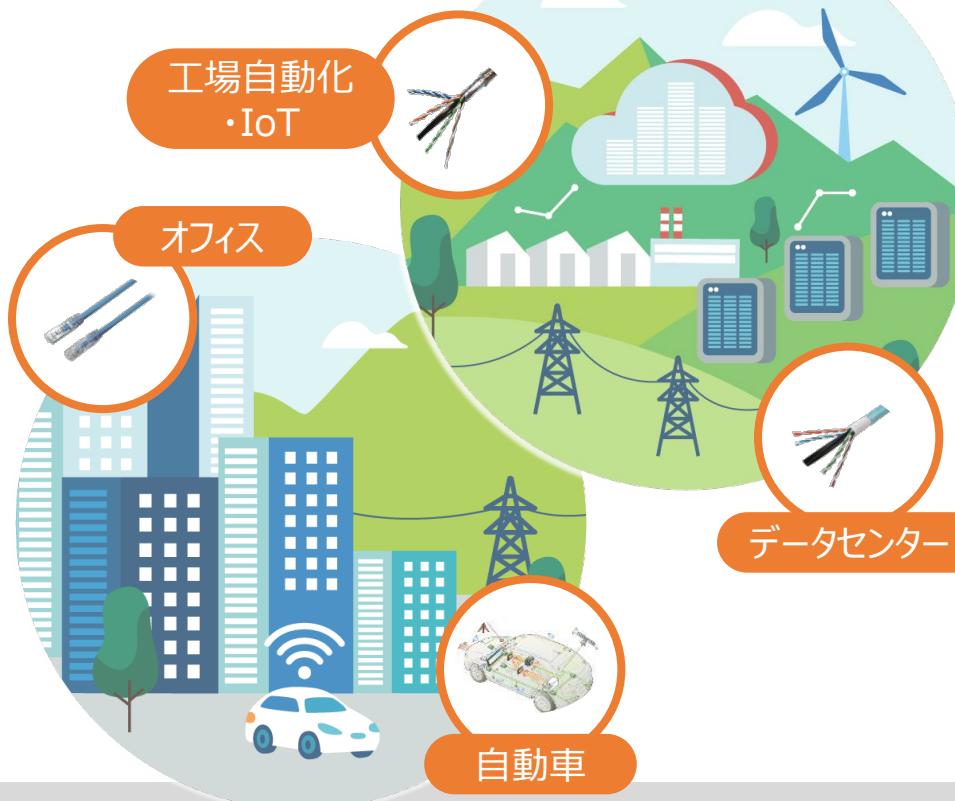
当社製品が選ばれる理由

- 技術優位性** 世界で5社程度が保有する量産技術
- グローバル実績** 日米欧韓の光ファイバのリボン加工が可能
- 技術力** 細径で軽量、高密度で顧客指定の光ファイバも使用可能

通信ケーブル事業 FLANTEC® (フランテック) の成長戦略

国内向けシェア約4割。生成AI、IoT、ADAS・自動運転などを実現するためのデジタルインフラ構築に向け領域を拡大。
さらなる高速化と高い信頼性が求められる様々なシーンで活躍しています。

こんなところで使われています



成長機会

- 5G通信の進展
- IoT・DXによる効率化
- 自動運転の進展
- AIの利用拡大

高速・大容量通信の需要増大

当社製品が選ばれる理由

- 従来製品よりも10倍の速度を実現
- オフィスから工場・データセンタまで幅広い用途で利用可能

国内シェア4割を誇る



“高速”かつ“高信頼”

自動車に搭載されている当社の主力製品

自動車に搭載されている当社の製品は多くありますが、その中でも、シートヒータ線と駆動モータが主力製品です。

【駆動モータ・MG】

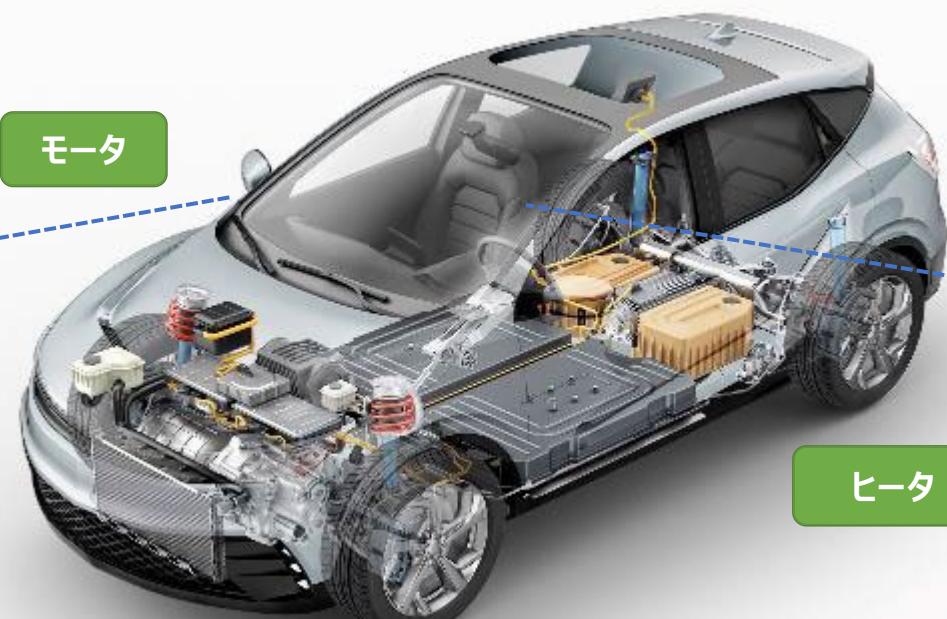
厚膜平角



【補助モータ・ISG】

厚膜平角

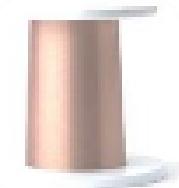
モータ



ヒータ

【ヒータ】

シートヒータ線



【各種ECU・パワーチョーク】

細物平角

極細平角



【マグネットクラッチ】

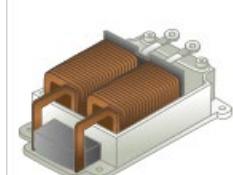
ダブルコート丸線

【バスバー】



【リアクトル】

幅広平角



TOTOKUグループの戦略的意義とシナジー効果

TOTOKUのグループ化により成長領域への展開と海外事業の拡大を一層加速させ、**通信・コンポーネンツ事業をエネルギー・インフラ事業に並ぶ主力事業**とします。

成長領域

SWCC株式会社

TOTOKU

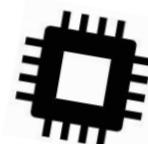
モビリティ

xEV市場
自動運転市場



半導体

半導体検査
装置市場



AIサーバ

AIサーバ市場



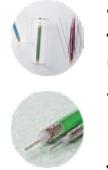
シートヒータ線
(銅合金線)
車載高速
通信ケーブル



シートヒータ線
高耐圧複合電線
(Flterio)



プローブピン



コンタクトプローブ
(CP)
高性能同軸ケーブ
ル(RUOTA)



三層絶縁電線
(TIW=Triple Insulated
Wire)

TOTOKUの買収により新規獲得

シナジー

①クロスセル・製品提案力

異なる優良顧客基盤

SWCC
セットメーカー



TOTOKU
グローバルニッチ

顧客基盤を生かした
マーケティングの強化

②共同開発・新製品開発

高い技術力

SWCC
合金素材



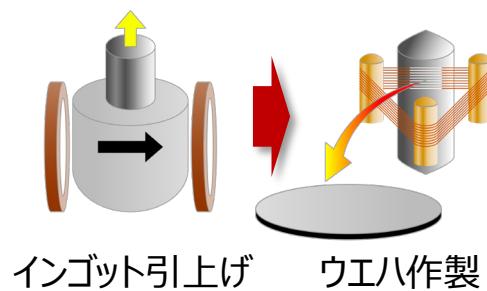
TOTOKU
細線・特殊加工

お互いの技術力を生かした
新製品開発の強化

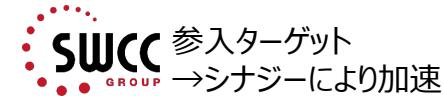
半導体関連事業の事業領域

現在注目されている、半導体の検査工程に欠かせないコンタクトプローブや、高性能同軸ケーブルなど最先端半導体の微細化、高速化に貢献する製品を提供しています。

前工程

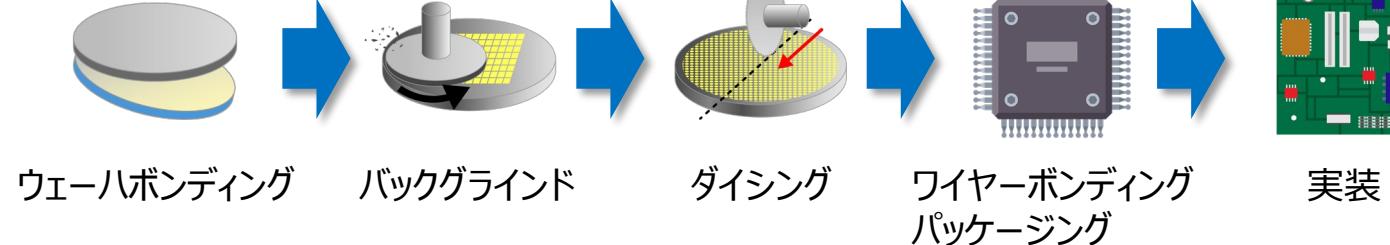


【半導体の検査工程】



検査

後工程



シナジー効果の領域

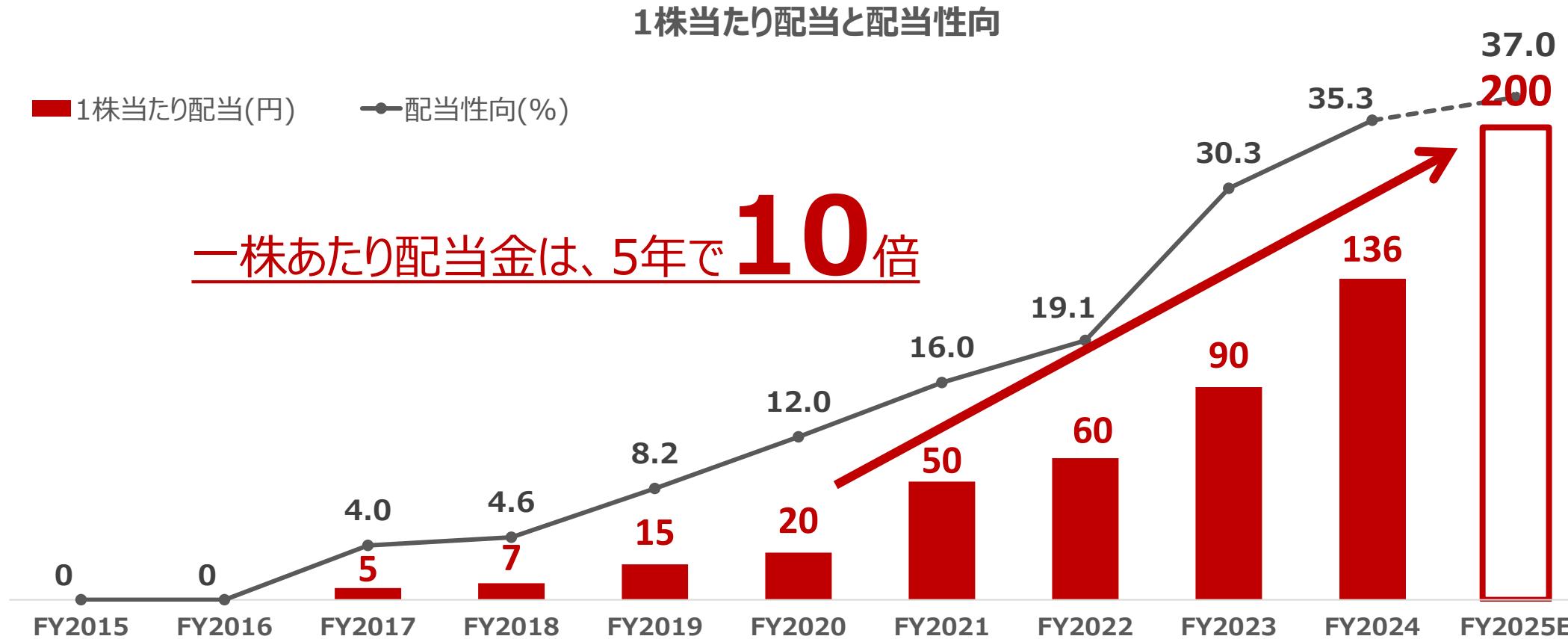
工程	主なプローブ	製品フィールド
前工程	MEMS プローブ	
	コブラ プローブ	
	カンチレバー プローブ	グループイン による シナジー 効果領域
後工程	ワイヤー プローブ	TOTOKU
	スプリング プローブ	



3. 株主還元について

株主還元

財務の健全性を維持向上とともに、成長投資とのバランスをみながら配当を実施しています。
2025年度は配当金200円、配当性向37.0%を予定しています。



4. Appendix

会社概要

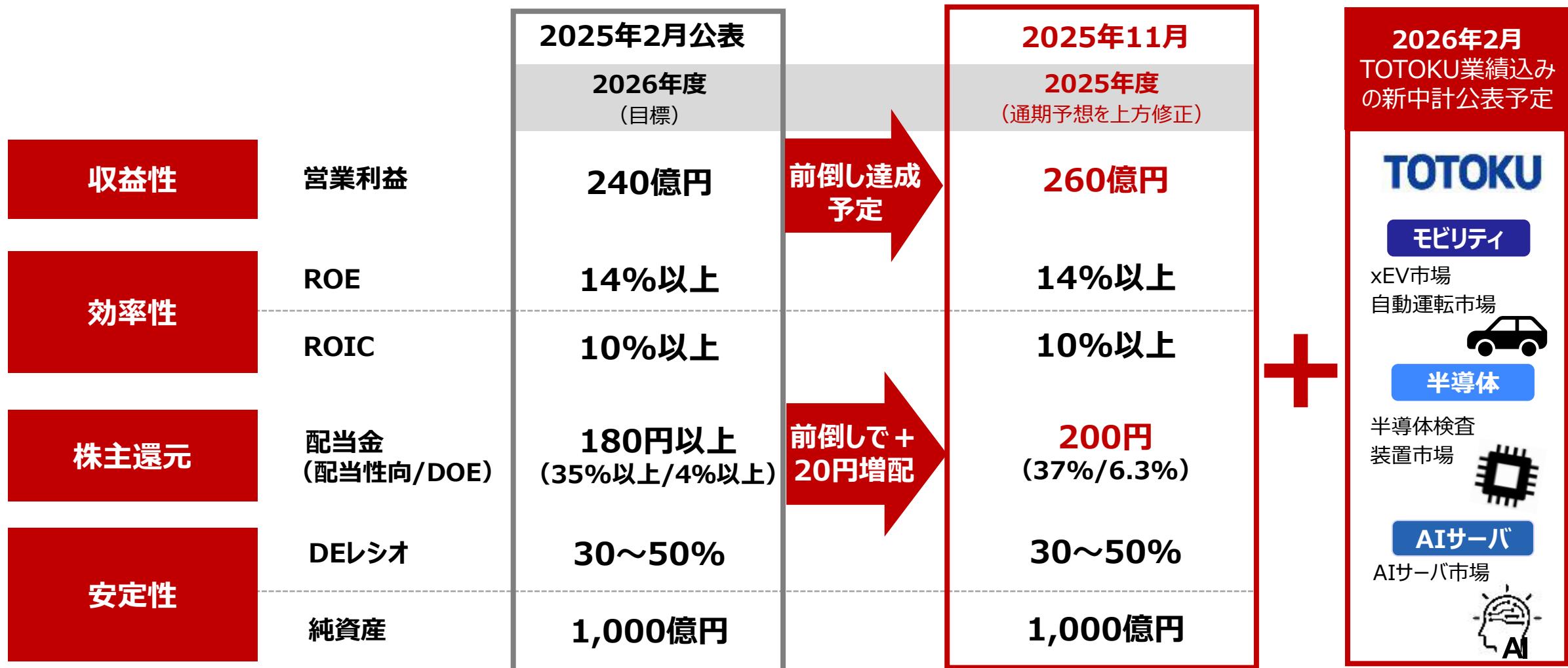
商号	SWCC株式会社	決算期	3月31日
英語表記	SWCC Corporation	従業員数	4,840人（連結）
設立	1936年5月26日	株主数	11,745名（2025年3月31日現在）
事業内容	電線・ケーブル、電力機器部品、巻線、光ファイバ ケーブル、情報機器用ローラ、免震・制振材、防振 ゴム等の製造販売	株式の 上場	東京証券取引所プライム市場 「証券コード5805」
本社所在地	神奈川県川崎市川崎区日進町1-14 JMFビル川崎 01	1単元の株 式数	100株
資本金	24,221百万円		

（2025年9月30日現在）

株価推移



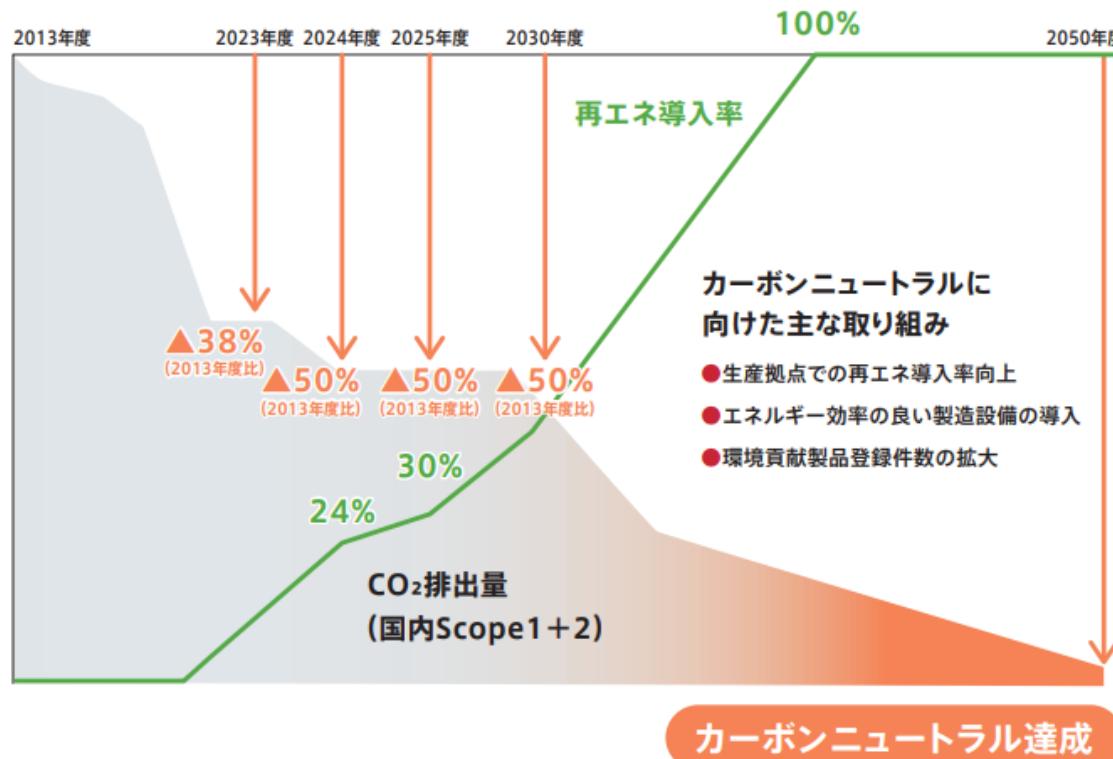
2025年度の上方修正計画値と中期経営計画について



サステナビリティの取り組み：環境課題への対応

当社グループは、信頼とイノベーションにより、「社会課題の解決」と「企業価値向上」を図り、サステナブルで豊かな未来社会を創ることを実践し、グループ一体となって環境保全活動に取り組んでいます。

2050年カーボンニュートラルへのロードマップ

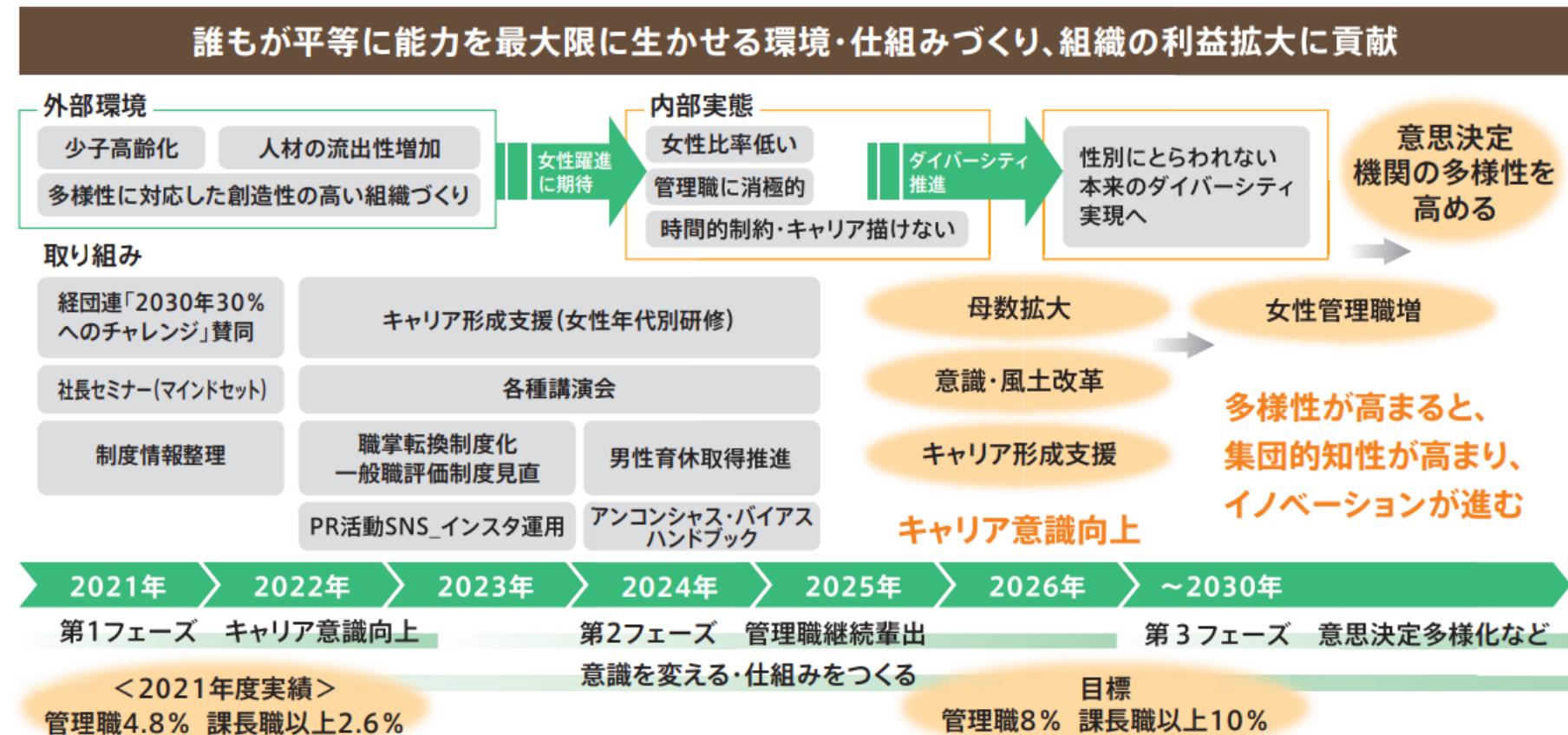


環境目的	指標	2024年度実績	第7次環境自主行動計画 [2025年目標]	2030年度目標	長期ビジョン
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量	2013年度実績より 50% 削減 (Scope1+Scope2) オフセット分含む	2013年度実績より 50%以上 削減 (Scope1+Scope2) オフセット分含む (※1)	2013年度実績より 50%以上 削減 (Scope1+Scope2)	・CO ₂ を排出しない製品またはカーボンニュートラルな製品の実現 ・環境課題解決製品の創出
資源の有効活用	廃棄物の最終処分量	2018年度実績より 90% 削減	2018年度実績より 90%以上 削減 (※2)	2018年度実績より 85%以上 削減	最終処分量 (埋立量) ゼロの実現
水資源の有効活用	水使用量	2018年度実績より 35% 削減	2018年度実績より 35%以上 削減 (※3)	2018年度実績より 50%以上 削減	水資源の持続可能な利用の推進

(※1)：当初目標45%を達成したことにより目標値を引き上げました (※2)：当初目標80%を達成したことにより目標値を引き上げました
(※3)：当初目標25%を達成したことにより目標値を引き上げました

サステナビリティの取り組み：人的資本の強化

当社グループは、人材を人的資本として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげようとしています。多様な人材活用の促進や挑戦や成長を支援する社内制度など、働きがいのある職場づくりに向けた施策を積極的に推進しています。



外部評価

当社は、さまざまな外部評価機関において高い評価を獲得しています。

- JPX日経インデックス400選定



- CDP 2024においてBリスト企業に選定



- 日本格付研究所 (JCR)の格付で「A-」を取得



- MSCI ESGレーティングで「BBB」評価を獲得



- IR優良企業賞2025において"共感!"IR賞を初受賞



- 「第11回 IR グッドビジュアル賞」受賞





SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知ください。実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。